

つばめ会会報

“Slope”

第17号

目次

- 幹事長の挨拶 円井基史(19期)
- インカレ報告 前田裕太(24期)
- コーチの言葉 田中淳一(23期)
- 前部長の挨拶 北村伸介(25期)
- 新部長の挨拶 松井弘毅(26期)
- ジュニアチャンピオン大会参加御礼 仁多見剛(20期)
- 近況報告 岡部健志(21期)

幹事長の挨拶

19期 円井基史

横浜にて執筆中の現在（4月中旬）、桜もだいぶ散り、かわりに木々の新芽が顔を出し、その燃えるような緑が目眩しい季節となってきました（山ではこれを「山が笑う」と言うとか）。つばめ会の皆さんは、いかがお過ごしでしょうか。オリエンテーリングを続けている人も、休止している人も、新しい年度の中で新たなスタートをきったものと思います。

3月には、インカレのミドルとリレー（日光）そして全日本大会（富士）がありました。インカレミドル（昔のインカレショート）では、OLT4年の前田裕太選手が7位となりました。インカレリレーは今年から3人制（これまでは4人制）になり、OLTは1走北崎茂選手（3年）、2走小山温史選手（1年）、3走前田選手という布陣で臨みました。今年のリレーは近年まれに見る大混戦の展開となりましたが、OLTの結果は定位置とも呼べる7位でした。6位入賞まで50秒、そして実はあと1分早ければ4位だったわけですが、その50秒、60秒が、この1年間の積み上げの差だと認識して、来年に繋げて欲しいものです。

全日本大会の選手権クラス（M21E）へは、円井（19期）と前田選手が出場し、それぞれ10位、20位でした。元OLTコーチの松澤俊行選手は4位でした。前田選手の20位は、素晴らしい成績だと思います。円井の10位も、実力を十分発揮できた結果だと考えています。

4月に入ると、JWOC（ジュニア世界選手権）の選考会があり、羽賀岳尋選手（新3年）が日本代表に選出されました。OLTからのJWOC代表は、世古口氏（16期）、蔵田氏（22期）に続く3人目です。7月にスイスで行われる本番での活躍が楽しみです。

3月末に愛・地球博が開幕し、8月にはいよいよ世界オリエンテーリング選手権がやって来ます。つばめ会の皆さんと、世界選手権の会場で会えることを楽しみにしています。

インカレ報告

24期 前田裕太

東工大OLTをこの春に卒業致しました24期の前田です。東工大OLTを代表いたしまして、先日3月11日～13日に日光で開催されました第27回日本学生オリエンテーリング選手権大会の参加報告をさせていただきます。

年々の運営者不足と参加者の減少、それに伴う参加費収入の減少と赤字の増大に対応するため、イン

カレの開催形式は今年からこれまでと大きく変わりました。個人戦に関しては、秋にロング、春にミドルという形式になりました。ロングはこれまでのクラシックに相当し、ミドルはこれまでのショートと同様のコンセプト・優勝設定で、事実上、クラシックとショートの時期が入れ替わったこととなります。リレーでは男子がこれまでの4人制から3人制に変更になりました。このような新しい形式のもと、栃木県日光市・今市市のかつての「日光霧降」の地域(今回のテレイン名は「不動の滝」)にてインカレが開催され、全国から49大学、688人が参加しました。東工大OLTからの参加者数は32名(全国5位)と、年々のOL人口の減少の流れの中でも東工大はしっかり人数は維持しているようです。

今回のインカレでは男子シード選手が合計14人おり、そのうち東北大と京大がともに3人ずつを占めました。関東地区からは7人のシードが出たものの、複数人のシードがいるクラブは1校もなく、きれいに1校に1人ずつ分散する形となりました。今回、関東のシードはシードの中でも特に速い方の選手が多く、関東内の各校エース対決に加え、関東の大物シードが一人で東北・京都にどこまで太刀打ちできるかにも注目が集まり、まさにエース個人の力量が個人戦のみならず団体戦の結果をも大きく左右することが予想されました。ぼくも、関東地区の有力シードの一人としての立場を意識して、自分自身のトレーニングはもとより、クラブの強化にもかなり力を入れ、エースとして引っ張ってきたつもりです。ただなかなかついてきてもらえなかったのが心残りです。

前置きはこれくらいにして、まずはミドルの報告を致します。予選は4レーンに分かれて行われました。各レーンの上位10名までがAfinalに進出できます。東工大からは、昨年秋のインカレロングチャンピオンの坂本貴史選手の親友にして、ぼくのインカレロング3位の快挙を支えた影の立役者、人並み外れた熱心さと真剣な姿勢、多様な視点と豊富な知識を持ち、ぼくとともにこの1年間クラブを引っ張ってきたもう一人の主力4年生の坪居君が、前年度インカレショートでの学連杯獲得の勢いに乗ってAfinal進出を期待されるも、1月2月と研究の方が相当に忙しかったようで、トレーニングができず、落選。それでもどうにか2年連続で学連杯を獲得しました。坪居君は1年生の頃は最も遅い方の一人だった選手であり、その大きな成長には目を見張るものがあります。「生まれつきの上手い下手は関係ない」ということを自ら実証し、これから速くなりたいと思う後輩たちに大きな夢と希望を与えたと言えます。

他の主力選手としては、のちにJWOC代表となる羽賀君(当時2年)がボーダー+4分の22位。途中で4分ミスと1分ミスを1回ずつやっており、巡航的には通過レベルにいただけに悔やまれるところです。OL暦1年目にして見事ミドルセレ通過を果たし今後の活躍がとても期待される山崎君(当時1年)は、出だしこそ良かったものの、1-2で1分弱のミスをしてペースを崩してしまったようで、今ひとつ振るわず敗退。それなりにトレーニングを頑張っていた岡君、村上諒一君(ともに当時3年)、高瀬君、松井君(同2年)は、あと1歩頑張りが足りなかったようで、巡航不足で敗退。

そんな中、東工大初のAfinal複数人進出に向けて大本命と思われたのが、北崎君(当時3年)と小山君(当時1年)でした。北崎君はサッカー部出身者でそれなりに体力もあり、今年は日本学連の幹事を担当して自ら全国の速い人たちと知り合いになる一方、日本学連合宿に参加したり、関東学連有志で誘い合って自主練習を行ったりと熱心に活動してきていました。一方の小山君は、1年生ながら中学校時代からオリエンテーリングをやっている経験者で、インターハイME3位の実績を持ち、NT選手の鹿島田さんを

はじめ多数の速い選手と知り合いで、活躍が期待される選手の一人です。しかし、浪人時代の1年間トレーニングができなかったことによる体力低下が著しく、前向きに取り組もうという気持ちに自分を持っていくことに相当に苦労していたようです。結局、インカレを迎える時点で2人とも実力的にはちょうどボーダー付近にいると思われました。レースでは、北崎君は1-2で2分、2-3で4分のミスを立て続けにやっしまい、かなり悪い順位で敗退。小山君は7番コントロールまで4位と好成績を維持するも、7-8で4分の大ミスをして敗退。ボーダー付近の選手にとってミドルの予選は相当大きなプレッシャーがかかるようです。

結局、東工大OLTからAfinalに進出したのはぼく一人だけとなりました。ぼくは予選通過には絶対の自信があったので、登りは無理してスピードを上げようとはせずに決勝に向けて体力を温存しつつそこでしっかり地図を読み、山の中ではとにかくアタックと方向維持を徹底して基本に忠実にレースを進めました。特に大きなミスもなく、最後の道走り区間に出たところで通過確実と判断して最後は流してゴール。順位はレーン内2位で、ゴール後は特に疲れも感じず、決勝に向けていい位置につけることができました。

決勝では、関東の有力シードの1人でありながらなぜか予選をボーダーすれすれの10位で通過した山下君(農工4)が、早いスタート時刻でいきなり25分11秒の好タイムをたたき出し、そのまま優勝。同じく関東地区有力シードの川上君(慶應4)が途中まで好レースをして9番コントロール時点で2位を1分以上の大差で干切るも、次の9-10で2分半のミスをして一気に3位まで転落。ロングで輝かしい実績がない牧山君(東京4)が、ミドルの競技特性が相当合っていたようで、周囲を驚かす5位入賞。ぼくは、出だしこそうまく行ったものの、前半のやや複雑なレッグで苦戦し一気にペースダウン。ここで完全にリズムを崩し、以後このレースのメインとなる6レッグ中5レッグで立て続けにちょこちょこミスを重ねるひどいレースでした。結局一度も優勝争いに絡めず、それでもどうにか9番コントロールまで入賞圏内の4位で通過。しかし、最後の最後で、地図から見て尾根の「ちょっと北」にあると思っていたポストがなぜか尾根の真上にあっただのを見逃して下ってしまうミスが致命傷となり、7位という結果に終わりました。トップまで1分34秒、6位まで13秒、一方で13位との差もわずか14秒と、わずかなミスが大きく勝敗を左右するレースとなりました。

Bfinalでは小山君が優勝。山崎君、高瀬君、坪居君がともに10位となりました。1年生に関しては、有力選手のうち山崎君が選手権クラスに出走、村上一輝君が用事でそもそもインカレに参加できず、二人と並ぶ1年生のもう一人のエース、村上巧君に期待がかけられました。インカレ直前に膝を痛めるアクシデントがあったものの、ミス率を他の選手に比べて小さく抑える好レースをしてMUF4位に入りました。

(以下、ミドルの主な成績)

MEQA(予選)

- 1 坂本貴史 20:15 筑波4
- 2 前田裕太 21:02 東京工業4
- 10 田村陽祐 23:49 筑波3

- 17 村上諒一 26:31 東京工業 3
- 34 高瀬悠太 29:38 東京工業 2
- 35 山崎啓吾 30:01 東京工業 1

MEQB(予選)

- 1 高橋雄哉 19:57 図書館情報 3
- 10 樽見典明 24:23 名古屋 3
- 10 宮川純一 24:23 筑波 3
- 22 羽賀岳尋 28:28 東京工業 2
- 35 北崎茂 32:56 東京工業 3

MEQC(予選)

- 1 川上崇史 21:57 慶応義塾 4
- 10 今野良介 25:44 早稲田 2
- 17 松井弘毅 27:42 東京工業 2
- 18 坪居大介 27:50 東京工業 4
- 24 岡英樹 29:24 東京工業 3
- 30 久保田芳弘 30:24 東京工業 4

MEQD(予選)

- 1 小野田剛太 20:35 京都 4
- 10 山下智之 24:06 東京農工 4
- 18 小山温史 26:07 東京工業 1
- 38 鷹嘴和邦 31:29 東京工業 4
- 39 北村伸介 32:21 東京工業 3

MEFA(Afinal)

- 1 山下智之 25:11 東京農工 4
- 2 坂本貴史 25:24 筑波 4
- 3 川上崇史 26:03 慶応義塾 4
- 4 高橋雄哉 26:16 図書館情報 3
- 5 牧山知彦 26:27 東京 4
- 6 大西康平 26:32 京都 2
- 7 前田裕太 26:45 東京工業 4

MEFBA(Bfinal)

- 1 小山温史 21:58 東京工業 1
- 10 山崎啓吾 26:54 東京工業 1

MEFBB(Bfinal)

- 1 野田秀俊 22:40 東京 3
- 10 高瀬悠太 23:54 東京工業 2

MEFBC(Bfinal)

- 1 益本宇一郎 21:43 東京 4
- 10 坪居大介 24:32 東京工業 4

MEFBD(Bfinal)

- 1 高橋元気 22:49 東北 3
- 12 岡英樹 25:51 東京工業 3

MUA2(一般併設クラス)

- 1 三上諒 45:32 岩手 3
- 2 木平孝和 50:22 東京工業 3

MUF2(1年生)

- 1 堀田秀聡 27:00 千葉 1
- 2 石坂仁 28:20 千葉 1
- 3 長縄知晃 28:40 東北 1
- 4 村上巧 30:04 東京工業 1

続いてリレーの報告を致します。男子選手権クラスでは、シード選手 3 人をそろえた東北大が圧倒的な強さを見せ優勝。京大からはシード選手 3 人のうち 1 人が選手権から外れ、大西君、小野田君の 2 人のシードを 2 走、3 走に持ってきました。しかし、シードが複数いる学校は東北と京都の 2 校しかないため、京都が 2 位以内に入るのは確実と思われました。ところが、関東有力シードの一人の坂本君(筑波 4)が 3 走を走り、他のシード選手が軒並み 46 分前後かかったコースをただ一人 41 分という恐ろしいタイムで回ってきて、京都 3 走相手に見事な大逆転をして、東北までもあと 1 分のところまで迫る 2 位に入りました。

東工大は前日のミドルの結果から考えると相当な苦戦が予想されました。ところが、1 走の北崎君、2 走の小山君とあまり崩れず、予想よりもかなりいい位置で帰ってきて、6 位までわずか 5 分しか差をつけられずに 3 走のぼくにバトンが渡されました。あとは自分が崩れずにふつうに回ってこれれば当然 6 位入賞はできるものと確信しスタート。地図を見たらそれなりに難易度の高いコースだったこともあり、自分が追いかけようとするよりも、とにかく自分が崩れずに回り、相手が勝手に落ちてくることに期待した方がいいと判断しました。レース中は下手にスピードを上げようとしたり感覚的なショートカットをしたりせず、とにかく CP、AP をしっかり取り、アタックと方向維持を徹底して、基本に忠実に、終始安全志向でレースを進めました。特に大きなミスもなく、ほぼイメージ通りのレースができました。しかし、前を走っていたチームの 3 走が思いのほかいいタイムを出し、思ったほど差は縮まらず、7 位に終わりました。4 位まで 57 秒、6 位まで 48 秒、一方で 8 位との差も 34 秒と、大混戦になりました。トップの東北との差は 11 分と、3 人制になったにも関わらず相変わらずの大差での大敗でした。

併設クラスのリレーの方は、1 走の羽賀君がトップ + 55 秒の 8 位という好位置で帰ってくるものの、あとが続かず 15 位。新人クラスも表彰には遠く及ばず敗退。選手の層の薄さを露呈する結果となりました。

(以下、リレーの主な成績)

ME(選手権)

- 1 東北大学 2:19:14 小林 - 後藤 - 鉾立
- 2 筑波大学 2:20:29 田村 - 宮川 - 坂本
- 3 京都大学 2:23:31 保呂 - 大西 - 小野田
- 4 早稲田大学 2:29:59 今野 - 今井 - 尾崎
- 5 金沢大学 2:30:00 鶴田 - 天谷 - 松室
- 6 東京農工大学 2:30:08 井上 - 山下 - 菊地
- 7 東京工業大学 2:30:55 北崎 - 小山 - 前田

MUR(一般併設)

- 1 京都大学 MA 1:18:13 津国 - 室田 - 楠本
- 7 筑波大学 MB(新人) 1:28:58 青山 - 並木 - 川添
- 15 東京工業大学 MA 1:36:40 羽賀 - 岡 - 村上諒一
- 34 東京工業大学 MF(新人) 1:46:20 山崎 - 比嘉 - 村上巧

このように、Afinal 進出は一人だけ、選手権でも併設でも表彰台上った人はほとんど皆無、しかもほとんどの選手・チームは大差での敗退と、成績を見ると相変わらずの弱小校の成績で、うんざりしているOBの方も多いのではないかと思います。しかし、クラブとしては弱小校であっても、その中にもやる気のある選手はいるものです。ぼくや坪居君もそうでした。26期の高瀬君、27期の山崎君なども熱心さが感じられ、将来が期待されます。今回のインカレでは、これまでインカレチャンピオンなど無縁の世界だった弱小校の中から、何人ものシード選手が生まれました。農工大の山下君。慶應の川上君。図書館情報大学の高橋雄哉君。名古屋大の三宅君。もちろんぼくもその一人です。弱小校の人間であっても速くなることは可能です。そして、その素質を持ち備えた選手は弱小校にも必ずいます。どうかそのことを忘れないで頂きたいと思います。

長くなりましたが、以上でインカレ参加報告とさせていただきます。

コーチの感想

23期 田中淳一

3月のインカレが終了し、一応、ヘッドコーチとしての任務期間は終了いたしました。インカレの結果を見ると惜しいながらも入賞を逃してしまい、コーチとしての力不足を感じました。

私はオリエンの速さだけで言えば、だいたいの現役とは張り合えるレベルにはありましたが、現役時代にトレーニングやオリエンの練習方法を試行錯誤して行ってきたというタイプではなかったために、どのようにすれば現役を速くできるのかという問いに対してはなかなか適切な解が得られなかったように思えます。これは私だけでなく歴代のコーチの方々にも同じような考えの人がいたのではないかと思います。コーチといってもOB1年目であまり指導もしたことがないですから、最初のうちは当然やり方も定まらないと言った状況でした。そして、コーチに慣れてきたころにコーチ期間が終了してしまうとパターンになってしまいました。コーチのノウハウを次のコーチに伝えるような体制ができるともう少しOLTも強くなるのかななんて思ったりしました。

あとは、学生との話し合いが少なかったのも反省すべき点のひとつだったように思います。コーチを引き受けた当初は運営学年とコーチで話し合いをしたり、現役との意見交換もしましたが、後半のほうになってくると、だんだんなくなっていきました。現役との意思疎通が十分にできなかったのではないかと反省しております。

今年、実際にコーチとして行ってきた業務としては以下のものをやりました。

- ・ セレクションのオフィシャル業務
- ・ インカレのオフィシャル業務
- ・ 秋、インカレロング直前、冬、インカレ直前の計4回にわたる技術合宿の運営
- ・ セレクションの対策練習会の運営

- ・ テクミにおけるアドバイザー
- ・ インカレメンバーのセレクション方法選定
- ・ トレキャンペーンの運営
- ・ etc

おそらく例年とあまり変わらないとは思いますが、今年はトレキャンペーンという試みを行ったのが特徴かなって思います。これは夏休みの間のトレーニング量を競おうというものです。1週間ごとにトレーニング量を集計して提出してもらい、それを Web で公開し、他の人のトレーニング状況に刺激を受けながら頑張るというものでした。これによって、トレーニング量が落ち込みがちな夏に、トレーニングに対するモチベーションを提供できたのではないかと考えております。

最後に、ヘッドコーチを引き受けてから、オフィシャル業務やら合宿のメニューを決めたりいろんなことをやってきましたが、これらを遂行できたのは私一人の力ではなく、一緒にコーチをやってくれた同期の斉藤と徳江のお陰です。また、現役においては、こちらが決めたメニューを合宿などでしっかりこなしてくれたり、部長が中心となってまとまってくれたりしたので、こちらとしてもとてもやりやすかったです。ありがとうございます。さらに、合宿運営は臨時コーチにもとても助けられました。特に、私以外のコーチがどうしても都合が付かず、参加することができなかった秋合宿は臨時コーチの方々が手伝いにきていただけなかったら実行することはできなかったと思います。本当にありがとうございました。きっと、今年のコーチ陣も合宿によっては人手不足で困るときがあると思うので、つばめ会の皆さんでもし時間があるようでしたら、手を貸してあげてくれたらと思います。私も極力力になれる部分ではコーチをサポートしていきたいと思っています。

1年間どうもありがとうございました。

前部長の言葉

25期 北村 伸介

つばめ会の皆様、こんにちは。2004 年度部長の北村です。原稿依頼が来たので、私が部長だった一年間をまとめてみたいと思います。

さて、皆様ご存知だとは思いますが、3 月に行なわれました日光インカレにおきまして、我々東工大 OLT はミドル部門で 7 位、リレー部門も 7 位という結果に終わりました。どちらも秒差ということで、非常に悔しい思いをしました。併設部門では MUA クラスで 2 位、トレイルでは N クラスで 1、2 位を取ることが出来たものの、合計メダルは 3 個。今期の大目標であった「山川杯獲得」(全クラス合計で最も多くのメダルを取る)には遠く及びませんでした。このことについて少し述べたいと思います。

まず、昨年度は大目標である「山川杯獲得」の他にそれを達成するための個人目標として「半年間に OL

参加 15 回、走行距離 360km」と設定しました。しかしながら、この設定数値に関して、あくまでも目安であり部員一人一人の尺度に合わせて置き換えるということを行なった結果、厳密に守るという意識が薄れ、達成度が低くなりました。また後期目標を前期と同じにしたため、さらに達成度が低くなり、結果山川杯を獲得することが出来なかったのだと思います。また、数値目標だけ定め、各自の行動指針などを策定することも行なわなかったことも影響していると考えられます。

しかしながら、悪いニュースばかりの一年ではありませんでした。昨年 11 月に愛知で行なわれましたインカレロングでは 3 位を、さらに 9 月に行なわれました新人戦では 1 位を取ることが出来、良いニュースも多かった年でもありました。また、新たに OLT に入部した 27 期は、経験者である小山を中心にして積極的に大会や練習会に参加しており、そのことが部全体に良い刺激を与え、非常に充実した一年であったと思います。

さて、日光インカレをもって運営学年が 26 期に移行し、新しい部長である松井君を中心に、現在は新歓活動を精力的に行なっています。今年度の部の方針など、詳細は彼が書いてくれると思うので省略しますが、昨年度の反省を生かしながら部をまとめていって欲しいと思います。そして来年の 3 月、愛知インカレのリレー表彰式において、部員全員が笑顔で写真に納まる事が出来たらと思います。

最後になりますが、つばめ会の皆様、今後ご指導、ご声援のほど宜しくお願いします。

拙い文章ではありますが、この辺で終わらせていただきます。

新部長の言葉

26期 松井 弘毅

つばめ会の皆様、こんにちは。今年度、東京工業大学オリエンテーリング部の部長を務めることになりました松井弘毅と申します。よろしくお願いいたします。

さて、去る 3 月 12、13 日には日光でインカレが行われました。今年度のインカレの M トレの成績は 7 位でした。惜しくも入賞を逃す結果となってしまいましたが、アンカーが帰ってくるのを皆で待ちうけ、部の旗を振り、声を出して応援する中で、これがリレーなんだなあ、と実感しました。インカレ後に、数人の部員のインカレへの思いや感想を聞くこともありましたが、それらを聞くにつけ、やはりインカレは特別なものなんだな、と思いました。部長の引継ぎもインカレ終了後に行われました。これから 1 年部員のみならず共に頑張りたいという意欲と、来年どんな部としてこのインカレを迎えることになるのだろうという多少の不安も入り混じった気持ちで引継ぎを終えました。

さて、今年度の部の目標ですが、「インカレロング及びミドルでメダルをなるべく多く取る」ということになりました。これは昨年度の目標であった「山川杯獲得」をミドルだけにとどめず、ロングにまで拡張したものと理解していただければよいと思います。加えて、今年度は目標達成に対する各人の意識を強めるため

に、部の目標達成に貢献できるような個人目標を各人が独自に定め、掲示することになりました。さらに、各学年2～3名ずつの縦割りグループを作成し、そのグループ内で個人目標を管理するということになりました。他にも、校外で行う水曜練習を増やしたり、週末に行われたオリエンテーリングの大会の反省を行うためにテクミを月曜日に移したりなどの改革を行うことになっております。

インカレ後から部長として本格的に動き始めていますが、早くも難題にぶつかることもありました。部長とは言え、みんなの協力なくしては何もできない、しかしながら部長が動き出さなければ何も始まらない、と思っております。オリエンテーリングは個人競技であり、その楽しみ方は人それぞれであると思いますが、部としてのまとまりはなくてはならないと思います。やり方は人それぞれでも、部員どうし、まとまりをもち、楽しく活動できたら、と思っております。

オリエンテーリング部に入部してから、24期や25期の先輩たちには特にお世話になってきましたが、今度は部長として、運営学年として、自分たちで下級生によい思いをさせてあげられるように頑張っていきたいと思っております。部長としてまだまだ未熟な部分があると思っておりますが、1年間頑張っていきたいと思うので、つばめ会の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

ジュニアチャンピオン大会参加御礼

仁多見 剛(OLT20期;JC大会実行委員長)

過日は多摩OL主催、ジュニアチャンピオン大会に多数のつばめ会会員様(+OLT現役学生)から出走いただきまして、誠にありがとうございます。大会は無事終了いたしました。

早いものでもう大会から3ヶ月もたってしまったのですね。。

反省点はいろいろとありますが、先代実行委員長の円井さん(OLT19期)にさせていただいたように、次期実行委員長を盛り立てるネタにさせていただく予定です。(インカレ運営の時の反省とあわせて。)

不成立スレスレのネタもありました。

(テープ巻き・設置にはもっと気を遣おう。)

電話機相手に怒鳴りつけたくなるようなお問い合わせもありました。

(htmlファイルは印刷には向かないって。Acrobatぐらい入れようよ。)

大会超直前にスタートリストを書き換えるような騒ぎもありました。

(なぜか参加者がクロスしていた??理由不明。)

当日になって、あれがない、これが足りない、というどたばたも、裏ではやっていました。

(ちゃんとトイレのスリッパは手配したはずなのに、数が足らなかった??)

まあ、フォロー不能の大失敗もなく、参加者アンケート結果もおおむね好評であり、やって良かった、と言える運営が出来たので、満足しています。

次回ジュニアチャンピオン大会は 2006/1/22 を予定しております。

ジュニアのための大会ではありますが、一般参加者の皆様にも満足いただけるような、また運営の手本になるような。そんな大会を作っていくことになるかと思います。(まあ、この辺は次の実行委員長にお任せしますが。)皆様におかれましても、大勢で参加していただくと幸いです。

近況報告

21期 岡部健志

つばめ会、OLT のみなさんお久しぶりです。21期の岡部です。早いもので東工大を卒業して社会人になってから1年以上がすぎました。学生時代と場所も生活もずいぶん変わりましたので、近況を報告しておこうと思います。

現在、僕はシャープの通信システム事業部というところで携帯のソフト開発を行っています。ドコモ向け携帯の部署に所属しており、最近だと SH901iC や SH700i を発売しました。携帯のソフト規模も大きくなっており自分の置かれたポジションを把握するのなかなか難しいですが、なんとか頑張っています。

住んでいる所は広島県の東広島市というところです。会社の寮に住んでおり、会社まで徒歩1分です。東広島ということもあり首都圏と同じ生活というわけにはいきませんが、近くの国道沿いには 24 時までやっているスーパーなどいくつか店もありそれなりに不自由せず生活しています。広島に来る事があればぜひ声をかけてください。

さて、社会人になってから原付、液晶テレビといろいろ購入してきましたが一番使い倒しているのは DVD レコーダーです。去年の夏ごろに買って以来ずっと重宝しています。便利な点の1つとしてビデオと違い「とりあえず録画」ができるようになったことがあります。今まではビデオの容量や録画する場所に制限があったので必ず見る番組しか録画できませんでしたが、今は見るかどうかわからない番組をとりあえず録画し、あとで見るかどうかを決めることができます。また、録画した番組を見る順番も自由に選ぶことができます。そのおかげで「爆笑オンエアバトル」「笑いの金メダル」といった番組を逃さずに好きな順番に視聴することができます。また、DVD に録画したものはパソコンに取り込むのも容易ですし、番組表を表示できるので予約も簡単です。

そんな DVD レコーダーも使い始めてから 1 年になり、色々と不便な事も感じてくるようになりました。

- ・ 同時に 2 チャンネル録画できない
ニュース番組のスポーツ結果を録画しようとしても、他の録画予約が邪魔して録画ができない
- ・ ハードディスク容量が足りない
80G だと、気軽に録画していくとすぐに満杯になってしまう。

他にも編集機能をもっと高めたり、番組を入れるフォルダを用意してほしい、などいくつかあるので、次

はこの辺を気にしながら購入しようと考えています。

とりとめもない話ですが、この辺で・・・。

ML・ホームページについて

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつばめ会ML(メーリングリスト)を立ち上げています。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連絡、近況報告など、お気軽に使ってください。メールアドレスは

tsubame@egroups.co.jp です。ご不明な点がございましたら、管理者の仁多見剛氏

(tsubame-owner@egroups.co.jp)までご連絡ください。このML に関するホームページ(登録メンバーのみ)

<http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にもぜひアクセスしてください。

また、つばめ会のホームページが稼働中です。ぜひご覧ください。

つばめ会のホームページ(作成者:岡部健志(21期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/4476/>

東工大OLT のホームページもリニューアルしました。ぜひアクセスしてください。

東工大OLT のホームページ(作成者:糸永幸平(26期))

<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Labo/3247/>

編集後記

広島に来て早一年、オリエンとは離れた生活を送っていましたが最近少し復活しつつあります。去年の12月には秋吉台での山口大学大会に参加し、今年に入っても日光インカレに応援しに行ったり岡山白石島大会へも参加しました。近場ではなかなか大会ありませんが、少しはオリエンに関わりつつ生活していけたら、と考えています。気をつけないと運動をまったくしない生活になってしまいますしね。

インカレ直後にこの会報を発行しようとしていたのですが、こんな時期になってしまい申し訳ありませんでした。次回は早めに行動してきっちり発行するよう努めます。それでは、最後に原稿を執筆していただいたみなさん、ありがとうございました。

東工大オリエンテリング部OB/OG 会「つばめ会」会報

Slope 17号

発行責任者 円井 基史

編集責任者 岡部 健志(ta-keshi@mte.biglobe.ne.jp)